

令和5年度
学校評価報告書



越前町立朝日小学校

目次

スクールプラン	・ ・ ・ ・ ・	1
学校評価年間計画	・ ・ ・ ・ ・	2
評価基準について	・ ・ ・ ・ ・	3
年間自己評価総括表	・ ・ ・ ・ ・	4
未来を拓く学力	・ ・ ・ ・ ・	5
幸せな社会を創る力	・ ・ ・ ・ ・	9
健やかな心身	・ ・ ・ ・ ・	1 3
家庭・地域との連携健全な働き方	・ ・ ・ ・ ・	1 7
学校関係者評価書	・ ・ ・ ・ ・	1 9

令和5年度 朝日小学校スクールプラン

教育目標

あかるい子
あたたかい子
あくまでがんばる子

「あかるい子 あたたかい子 あくまでがんばる子」の育成

ポジティブで明るい「心」と「ことばの力」の育成
多様性を認め、あたたかくつながり合う力の育成
主体的・協働的・創造的にたくましく伸びゆく力の育成

【保護者・教師の願い】

- ・学ぶ喜びを感じ、自分の考えを表現できる子
- ・明るく健康で、心身ともにたくましい子
- ・地域のよさを知り、ふるさとを誇りに思う心を持つ子

【児童の実態】

- ・明るく素直で、集団で協力することのよさを知っている。
- ・自分の思いを言葉で表現する力が弱い。
- ・困難に直面したとき、突破しようとする気持ちがやや薄い。

中期重点目標(育成する力)	具体的方策	数値指標(本年度目標)
【未来を拓く学力】 主体的・協働的・創造的に課題を解決する力 確かな知識と技能 豊かな思考力と表現力	・「単元構想」「魅力ある学習課題」を基に粘り強く取り組み、「学びのふりかえり」を通して自らの学習を調整できるようにする。 ・「目的、方法、見方・考え方を明確にした対話」「効果的なICTの活用」により、自己の考えを広げ深める対話的な学びを充実させる。 ・「繰り返し学習」を工夫し、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 ・図書環境を整え、月一回の「読書の日」を設けることで、いつでも読書に親しめるようにする。	○粘り強く学習に取り組んだ。 80%(とても 60%) ○対話で学びを深めた。 80%(とても 60%) ○読書が好き。 90%(とても 50%) ◇国語・算数の単元末テスト 80点以上の児童75%以上
【幸せな社会を創る力】 多様性を認め あたたかくつながり合う力 主体的に 学級・学校づくりに関わる力	・ポジティブ教育(ソーシャルスキル・ピアサポート・レジリエンス)に重点的に取り組む機会を設ける。学校行事・ポジティブ週間・人権週間では、自他の良さを認め大切に活動する活動を充実させる。 ・中・高学年が「わくわくタイム」を主体的に企画・運営する機会を設け、学年の枠を越えた活動を充実させる。 ・委員会活動などを通じ、児童の多様なアイデアを積極的に取り上げ実践していくなど、児童が学校運営に関われるように支援する。	○自分にはよいところがある。 95%(とても 60%) ○仲間にはよいところがある。 95%(とても 70%) ○みんなで何かをするのは楽しい。 95%(とても 70%) ○進んで活動することができた。 95%(とても 70%) ○心を伝えるあいさつができた。 80%(とても 60%)
【健やかな心身】 心と体の健康を考えて 生活する力	・メディアの心身への影響について知る機会を設け、家庭と連携し、メディアとの付き合い方について考えられるようにする。 ・全校の児童が、正しい姿勢を意識し保持できるよう、意識を高める活動と体の力を高める活動の両面から取り組む。	□お子さんとメディアとの付き合い方について話し合った。(保護者) 80%(とても 20%) ○正しい姿勢を意識できた。 90%(とても 50%)
【家庭・地域との連携】 【健全な働き方】 「業務改善」と 「教育の質の向上」の 一体化	・ふるさと学習で探究力と地域への愛着を高める。 ・校務部会、学年部会、校内研修では、協働的・創造的に、授業その他の教育活動の質を高めていく。 ・業務改善と教育の質の向上を一体的に進める。 <取組>主体性を育む指導(手をかけすぎない) 日課表やカリキュラムの改善 ICTの可能性を創出 チーム対応 議論に焦点化したペーパーレス会議 家庭地域との連携 タイムマネジメント力の向上	☆協働的・創造的に教育活動を進めた。(教職員) 90%(とても 50%) ☆業務改善と教育の質の向上を一体的に進めた。(教職員) 90%(とても 40%) ☆超過勤務45時間未満を達成、または近づいた。100%

令和5年度 学校評価年間計画

朝日小学校

月	日	曜日	学校行事	学校評価関係
4	14	金	第1回PTA代議委員会	
	28	金	PTA総会(授業参観)	
5	20	土	体育大会	◇学校参観(体育大会)
	21	日	体育大会 予備日 (以降雨天順延)	
	22	月	振替	
	26	金		◇第1回 家庭・地域・学校協議会 ・授業参観、スクールプラン、年間評価計画の説明
	31	水	保護者会	
6	1	水	保護者会	
	21	水	前期指導主事訪問	◇学校参観(研究授業)
7	上旬			☆児童、保護者、教員アンケート実施
	21	金	夏季休業開始 8月29日(火)まで	
8	25	金		◇第2回 家庭・地域・学校協議会 ・「中間自己評価報告書」の説明、質疑応答、指導助言
	30	水	2学期始業式	
9	20	水	5年生 宿泊研修	
	21	木	5年生 宿泊研修	
	26	火	郡陸上交流会 (予備日:27日)	鯖江陸上競技場
10	3	火	6年生 修学旅行	
	4	水	6年生 修学旅行	
	5	木	1～4年遠足	
	18	水	マラソン大会 (予備日:19日)	◇学校参観(マラソン大会)
	24	火	後期指導主事訪問	◇学校参観(研究授業)
11	11	土	学習発表会	◇学校参観(学習発表会)
	13	月	振替	
	29	水	保護者会 1日目	
	30	木	保護者会 2日目	
	下旬			☆児童、保護者、教員アンケート実施
12	5	火	5年生 SASA2023 (福井県学力調査)	
	6	水	他学年…標準学力調査	
	14	木		○校内評価委員会(各部会) ・「年間自己評価書」の作成
	24	日	冬季休業開始 1月8日(月)まで	
1	9	火	3学期始業式	
	11	木		○校内評価委員会(各部会) ・「年間自己評価報告書」の作成
	17	水		◇第3回 家庭・地域・学校協議会 ・「年間自己評価報告書」の説明、質疑応答、懇談
2	2	金		◇第4回 家庭・地域・学校協議会 ・「学校関係者評価書」の説明、指導助言 (「学校評価報告書」印刷・製本)
	6	火	なわとび大会	◇学校参観(なわとび大会)
	29	木	6年生を送る会	◇学校参観(6年生を送る会)
3	1	金		○学校評価報告会(教育委員会報告)
	15	金	卒業式	
	22	金	修了式	

令和5年度 朝日小学校の評価について

(1) 評価方法について

〈具体的取組に関する数値目標の評価方法〉

◇目標を達成するための具体的方策の取り組み状況について、児童及び保護者、教職員対象に、1（はい）2（だいたい）3（あまり）4（いいえ）の4段階でアンケートを取り、その結果について肯定的回答（1、2）の割合から以下のようにA～Dの4段階で評価する。

A： 十分達成	…数値目標及びA回答率達成
B： 概ね達成	…数値目標のみ達成
C： やや不十分	…数値目標達成率5割以上
D： 不十分	…数値目標達成率5割未満

〈重点目標についての総合評価の評価方法〉

◇上記の各数値目標の結果に、教職員の取組状況（資料参照）を加味し、A～Dの4段階で総合的に評価する。

(2) 評価の時期と改善に向けて

◇評価は、1学期末（途中経過の把握）と2学期（年間自己評価）に実施する。

◇目標の取組状況と具体的方策の実施状況を関連させて検証し、課題を明らかにすることによって、方策の改善を図る。

(3) 評価の公表

◇評価結果については、文書やホームページで保護者や地域の人にお知らせする。

令和5年度 年間自己評価 総括表

中期重点目標	具体的方策	本年度目標	年間評価
【未来を拓く学力】 主体的・協働的・創造的に課題を解決する力 確かな知識と技能 豊かな思考力と表現力	・「単元構想」「魅力ある学習課題」を基に粘り強く取り組み、「学びのふりかえり」を通して自らの学習を調整できるようにする。 ・「目的、方法、見方・考え方を明確にした対話」「効果的なICTの活用」により、自己の考えを広げ深める対話的な学びを充実させる。 ・「繰り返し学習」を工夫し、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 ・図書環境を整え、月一回の「読書の日」を設けることで、いつでも読書に親しめるようにする。	○粘り強く学習に取り組んだ。 80%(とても 60%) ○対話で学びを深めた。 80%(とても 60%) ○読書が好き。 90%(とても 50%) ◇国語・算数の単元末テスト 80点以上の児童75%以上	B
【幸せな社会を創る力】 多様性を認め あたたかくつながり合う力 主体的に 学級・学校づくりに関わる力	・ポジティブ教育(ソーシャルスキル・ピアサポート・レジリエンス)に重点的に取り組む機会を設ける。学校行事・ポジティブ週間・人権週間では、自他の良さを認め大切にする活動を充実させる。 ・中・高学年が「わくわくタイム」を主体的に企画・運営する機会を設け、学年の枠を越えた活動を充実させる。 ・委員会活動などを通し、児童の多様なアイデアを積極的に取り上げ実践していくなど、児童が学校運営に関われるように支援する。	○自分にはよいところがある。 95%(とても 60%) ○仲間にはよいところがある。 95%(とても 70%) ○みんなで何かをするのは楽しい。 95%(とても 70%) ○進んで活動することができた。 95%(とても 70%) ○心を伝えるあいさつができた。 80%(とても 60%)	B
【健やかな心身】 心と体の健康を考えて 生活する力	・メディアの心身への影響について知る機会を設け、家庭と連携し、メディアとの付き合い方について考えられるようにする。 ・全校の児童が、正しい姿勢を意識し保持できるよう、意識を高める活動と体の力を高める活動の両面から取り組む。	□お子さんとメディアとの付き合い方について話し合った。(保護者) 80%(とても 20%) ○正しい姿勢を意識できた。 90%(とても 50%)	B
【家庭・地域との連携】 【健全な働き方】 「業務改善」と 「教育の質の向上」の 一体化	・ふるさと学習で探究力と地域への愛着を高める。 ・校務部会、学年部会、校内研修では、協働的・創造的に、授業その他の教育活動の質を高めていく。 ・業務改善と教育の質の向上を一体的に進める。 <取組> 主体性を育む指導(手をかけすぎない) 日課表やカリキュラムの改善 ICTの可能性を創出 チーム対応 議論に焦点化したペーパーレス会議 家庭地域との連携 タイムマネジメント力の向上	☆協働的・創造的に教育活動を進めた。(教職員) 90%(とても 50%) ☆業務改善と教育の質の向上を一体的に進めた。(教職員) 90%(とても 40%) ☆超過勤務45時間未満を達成、または近づいた。 100%	C

中期重点目標 (育成する力)	主体的・協働的・創造的に課題を解決する力 確かな知識と技能 豊かな思考力と表現力	
数値指標 (本年度目標)	粘り強く学習に取り組んだ。80% (とても 60%) 対話で学びを深めた。80% (とても 60%) 読書が好き。90% (とても 50%) 国語・算数の単元末テスト 80点以上の児童75%以上	まとめ評価 B

達成状況			
児童アンケート	粘り強く学習に取り組んでいますか。	肯定的回答 97% (とても 70%)	まとめ評価
			A
	対話で学びを深めましたか。	肯定的回答 94% (とても 62%)	まとめ評価
			A
	読書が好きですか。	肯定的回答 67% (とても 40%)	まとめ評価
			C

単元末テスト 80点以上の児童の割合 (%)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均	まとめ評価
国語	96.2	74.5	96.3	86.9	89.4	94.8	89.7	C
算数	96.4	53.5	87.6	66.6	64.7	70.0	73.1	

<資料>

取組状況			
教職員アンケート	「単元構想」「魅力ある学習課題」を基に粘り強く取り組み、「学びのふりかえり」を通して自らの学習を調整できるようにする。	肯定的回答 95% (とても 17%)	
	「目的、方法、見方・考え方を明確にした対話」「効果的なICTの活用」により、自己の考えを広げ深める対話的な学びを充実させる。	肯定的回答 100% (とても 39%)	
	「繰り返し学習」を工夫し、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。	肯定的回答 100% (とても 33%)	
	図書環境を整え、月一回の「読書の日」を設けることで、いつでも読書に親しめるようにする。	肯定的回答 59% (とても 24%)	

年間評価	総括（成果と課題）
	【学習を調整する力・対話的な学びについて】 ・指導主事訪問の指導案に「単元構想」や「単元を貫く学習課題」を加えたことで、教員間で意識化が図れた。 ・授業と生徒指導の一体化の観点（①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安心・安全な風土の醸成）について意識した授業づくりが行われた。研究会でも活発に意見が交わされた。 ・「学びの振り返り」に関しては、授業時間内に行うようタイムマネジメントに努め、書く際にも視点を明確に示すことができた。 ・ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、深い学びにつながるよう学習形態を工夫することで、児童は自分の考えを活発に伝えたり、相手の考えを取り入れたりしていた。そして、タブレット端末や投影機器などのICT機器を多く活用したことで、児童が自分の考えや友達の考えを可視化できるようになり、理解や活発な話し合いに結び付いた。 ・学習発表交流会では、タブレット端末を使って探求したことをまとめ、発表することができ、そのプロセスは生徒指導の4視点からも有効であった。 ・「個別最適な学びの推進」や「学びの調整力の一層の具体化」が今後の課題である。 【くり返し学習について】 ・漢字や計算は、ドリルやプリントを使って繰り返し行い、基礎的基本的な学習内容の定着を図った。 ・ミニドリルの短い読解問題や日記で読む力や書く力を付けている学年がある。十分に続けて行うことができなかった学級もある。 ・「時間の設定」や「学年や児童に最適な学習内容」、「AIドリル、ICT機器の活用」が今後の課題である。 【読書について】 ・図書委員会を中心に、読みたい本アンケートや図書クイズを企画し、3学期に行うなど読書への関心が高まるようにする。また、アンケートで人気のあった図書を図書室内で展示したり、親子読書シートを図書室前にすべて掲示したりして、子ども達がどのような図書に関心をもって読んでいるかを見えるようにした。 ・低学年は読書への関心が高いが、高学年になるにつれて関心が低くなっていく傾向が顕著に見られる。高学年児童の意見には、「図書室内には読みたい本がない」「本屋へ行かない」など、読書が身近にない状況が見えてきた。
	改善策
	・「個別最適な学び」については年度初めに研修を行い、具体的な手立てについて共有し研究実践を進めていく。指導主事訪問での授業では、「個別最適な学び」の場面を設定する予定である。 ・授業と生徒指導の一体化の観点（①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安心・安全な風土の醸成）をより一層意識するために、視覚的に分かりやすい形（ピクトグラムなど）を取り入れながら授業づくりを行う。 ・ICT機器やAIドリルの活用の仕方の研修を行い、教員間で活用方法や新しい情報を共有することで、授業改善につなげていく。 ・ミニドリルなどを繰り返し行うことで、引き続き基礎基本の定着を図る。そのために1日の中で決められた課題に取り組む時間を確保していく。また、取り組む内容を学年間でしっかり検討し共有していく。 ・低学年図書室には絵本や物語が充実しているが、高学年図書室にはあまりない状況が続いている。来年度以降も児童の意見を取り入れながら、児童が読みたい本の充実を図る。また、町図書館司書の協力も引き続き得て、新図書や人気ジャンルの図書の掲示を行い、読書への関心が高まるよう啓発活動に努める。 ・「読書の日」の効果的な活用について、アイディアを出し合い、教員も児童も読書に楽しみながら取り組めるようにする。 ・電子図書の活用を検討する。

【未来を拓く学力】

目標 主体的・協働的・創造的に課題を解決する力
確かな知識と技能 豊かな思考と表現力

①「単元構想」「魅力ある学習課題」の工夫と、「学びのふりかえり」からの学習の調整の推進

1年生の算数科「繰り上がりのあるたし算」では、児童がわくわくする授業を目指して、学習課題を工夫することを試みた。単元を貫く学習課題では、計算のポイントとなる言葉を穴埋めにして提示し、授業の中で見付けていくようにした。児童は、当てはまる言葉を見付けることを楽しみに授業に取り組んだり、繰り上がりのあるたし算の時は、「10になりたい物語」「さくらんぼ」「きゅうり」が大切であると理解したりしていた。

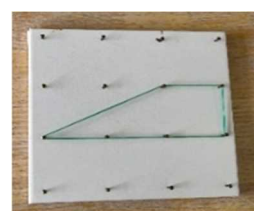


【10になりたい物語の板書】

授業の終わりには、授業で分かったことや友達から学んだことなどを振り返りとしてノートに書かせた。児童のノートには、「繰り上がりの仕方を覚えて、小さい方が大きいほうにあげることがわかりました。」「さくらんぼときゅうりで、ブロックを使わずに計算できてよかったです。」「〇〇ちゃんが発表して意味を教えてくださいましたのでわかりました。」などが書かれていた。振り返りを書き終えると自分で問題を作って解く児童もあり、難しい学習ではあるが前向きに取り組もうとする姿が見られた。

②目的、方法、見方・考え方を明確にした対話の場の工夫

4年生の算数科「垂直・平行と四角形」では、四角形の仲間分けを通して平行四辺形や台形の性質を考えた。ジオボードを使って自由に四角形を作り、四角形を辺や角、平行や垂直、対角線に着目して「～がある・～がない」「～している・～していない」のように仲間分けをした。ジオボードで四角形を自由に作らせることで様々な見方ができ、学習に対する意欲を高めることができた。また、話し合い活動の中で、ジオボードを見ながら視覚的に友達の考えを知ることで、自分とは違う見方に気付いていた。この活動を通して、新たな見方に気付いたり、身の回りにある四角形に目を向けたりする児童が増えた。



【ジオボード】



【仲間分けした理由を発表する様子】

③パワーポイントと動画を活用した発表活動

学習発表交流会では、全校がパワーポイントを活用して発表を行った。6年生は、パワーポイントに前期・後期委員会の取り組みをまとめた。前期委員会では、自分たちが行った取り組みの成果と課題の分析をパワーポイントにまとめ、動画にした。後期委員会では、前期を踏まえた改善案や



【発表の様子】

新たな取り組みの提案をまとめた。この活動を通して児童は ICT を使って主体的に取り組む姿が見られ、委員会の取り組みについて児童同士で相談しながら分かりやすくまとめていた。また、動画などを活用することで、より資料に説得力をもたせるようにしていた。



【発表資料をつくる様子】

④ミニドリルやAI ドリルを活用した、基礎的基本的な学習内容の定着

国語の読む力を育てるために、ミニドリルやAI ドリルを活用した。始めた頃は、時間がかかったり、大事な部分を見付けられなかったりする様子が見られたが、繰り返し行っていくうちに、速く読むことができるようになり、5分間で解けるようになってきた。また、大事な部分を捉える力も付いてきた。そして、裏面に漢字練習や一言日記を書かせる工夫により、児童は、楽しみながら取り組むことができた。一言でも、日記を毎回書くことによって、文を書くことへの抵抗もなくなり、書く力も付いてきた。ミニドリルは、量が少ないため、児童にとっては取りかかりやすく、読むことが苦手な児童も根気強く続けることができた。ミニドリルを繰り返し行うことで、読んだり書いたりする力の育成につなげることができた。



【ミニドリルに取り組む様子】

⑤図書環境の整備

児童が本を読みたいと思える図書環境を整備するため、本年度も引き続き図書委員会による図書アンケートを実施した。さらに、保護者に図書の寄贈を依頼した。寄贈していただく図書は事前に教職員からアンケートを取り、児童の学習に役立つとともに、児童が読みたいと思えるような物語や図鑑を募集した。寄贈された図書はすぐに図書室に配架して、児童が読んで読書に親しんでいる。



【寄贈された図書（一部）】

本年度も親子読書を実施し、集まった親子読書シートは図書室前にすべて掲示した。他の児童がどのような図書を読んでいるのか、掲示されたシートを見ながら交流する姿が見られた。



【親子読書の掲示】

中期重点目標 (育成する力)	多様性を認め あたたくつながり合う力 主体的に 学級・学校づくりに関わる力	
数値指標 (本年度目標)	自分にはよいところがある。95% (とても 60%) 仲間にはよいところがある。95% (とても 70%) みんなで何かをするのは楽しい。95% (とても 70%) 進んで活動することができた。95% (とても 70%) 心を伝えるあいさつができた。80% (とても 60%)	まとめ評価 B

達成状況			
児童アンケート	自分には良いところがありますか。	肯定的回答 81% (とても 50%) ある だいたいある あまりない ない 50% 31% 11% 8%	まとめ評価 C
	仲間には良いところがありますか。	肯定的回答 98% (とても 89%) 楽しい まあまあ楽しい あまり楽しくない 楽しくない 89% 9% 1% 1%	まとめ評価 A
	みんなで何かをするのは楽しいですか。	肯定的回答 97% (とても 86%) 楽しい まあまあ楽しい あまり楽しくない 楽しくない 86% 11% 2% 1%	まとめ評価 A
	進んで活動することができましたか。	肯定的回答 93% (とても 64%) できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 64% 29% 5% 2%	まとめ評価 C
	心を伝えるあいさつができましたか。	肯定的回答 90% (とても 62%) できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 62% 28% 9% 1%	まとめ評価 A

<資料>

取組状況		
教職員アンケート	学校行事・ポジティブ教育では、自他の良さを認め大切に活動を実施させる。	肯定的回答 100% (とても 67%)
	中・高学年が「わくわくタイム」を主体的に企画・運営する機会を設け、学年の枠をといた活動を充実させる。	肯定的回答 100% (とても 61%)
	委員会活動などを通し、児童の多様なアイディアを積極的に取り上げ実践していくなど、児童が学校運営に関わるように支援する。	肯定的回答 100% (とても 44%)

年間評価	総括（成果と課題）
	・ 6月5日からの1週間を「ポジティブ週間」とし、各学年の実態に応じて自分の強みを知る取り組みや個性の伸長について考える道德の時間を設けた。また、学校行事を「ピア・サポート」の視点を取り入れた活動のよい機会と捉え、積極的に活用した。その結果、高学年が低学年のサポートをしたり、同学年同士で困っている友達を助け合ったりする姿が見られた。教職員は研修を受けたり授業を参観したりするなど、ポジティブ教育に対する理解をさらに深められるようにした。 ・ 児童会や各委員会がわくわくタイムや全校集会を行った。わくわくタイムは、計6回行い、学年関係なく声を掛け合ったり共に喜んだりして、楽しい時間を過ごした。高学年は、わくわくタイムでどのような活動をする楽しみながら自分たちのねらいに迫れるかを考え、工夫を凝らした活動を行った。 ・ 心を伝える挨拶ができる児童を目指し、児童主体の様々な活動を行った。生活委員会では「あいさつビンゴ」を行い、各学級では自分たちの挨拶について振り返る時間を設けた。1年生では「自分たちができる活動は何だろう」とアイディアを出し合い、挨拶運動を行った。自分たちの挨拶について考える機会を多くもつことができたため、心を伝える挨拶への実践意欲が高まってきている。
	改善点
	・ 自己肯定感を高め、他者への思いやりや高い人権意識を育むために、計画的・継続的にポジティブ教育を推進していく。自分や相手の強みについて理解を深めたり実感したりするため、ポジティブ週間を設ける。また、行事や日々の教育活動の中に、ピア・サポートを意識した活動を積極的に取り入れる。 ・ 来年度も引き続き児童主体のわくわくタイムや委員会活動を行っていく。高学年は委員会活動、1～4年生は学級活動を軸とし、全ての児童が進んで学級・学校運営に関わることができるように支援していく。 ・ 児童の挨拶に対する意識をさらに高め、相手に心が届く挨拶ができることを目指し、自分達の挨拶について考える機会を設ける。学級会で自分達で取り組めることを話し合い実践していく中で、挨拶のよさに気づき、継続して実践していきたいという意欲を高めたい。

【幸せな社会を創る力】

目標 多様性を認め あたたくつながり合う力

主体的に学級・学校づくりに関わる力主体的・協働的・創造的に課題を解決する力

①ポジティブ教育

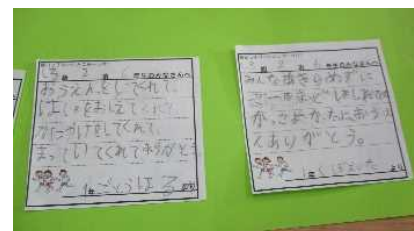
自分のよい所や強みに気付くことで、自己肯定感や自己効力感を高めたり、自他のよさを認め合える豊かな人間関係を形成したりすることをねらいとし、ポジティブ教育に取り組んだ。特に、6月5日から9日までを「ポジティブ週間」とし、全校で意識を高めた。わくわくタイムでは、児童会が中心となり「先生の強み」をクイズにして紹介した。強みについて理解を深めたり、誰にもよいところがあることに気付いたりするよい機会となった。道徳の時間には「個性の伸長」や「自分らしさを生かす」など、自分の強みについて考える学習を行った。お互いの強みを伝え合う活動では、「自分では気付かなかったよいところに気付くことができた」や「自分や友達のことをもっと大切にしようと思った」などの感想が聞かれ、自分や友達のよいところを再確認し認め合う姿が見られた。



【先生の強みクイズ】

②教育活動に取り入れたピア・サポート

強みを生かして活動を進めたり、問題を解決したりする場として、特に学校行事を活用した。体育大会やマラソン大会では、縦割り班を活用した応援席の配置にし、異学年の交流が行えるようにした。高学年が低学年のサポートをしたり、同学年同士で困っている友達を助け合ったりする姿が見られた。学習後にはピア・サポートの視点から振り返りを行い、自分も相手を支えていることを実感できるようにした。



【ペア学年へメッセージを書く】

③ポジティブ教育の研修の充実

教職員の、ポジティブ教育についての理解をさらに深めるため、研修の機会を設けた。教育研究所の仲野先生を講師とし、ポジティブ教育の意義を確かめたり、演習を通して授業で実践することができる内容を学んだりした。また、心理学「ジョハリの窓」を取り上げた6年生の授業を教職員が参観し、意見交流会を行うことで、さらにポジティブ教育についての理解を深めた。研修を受けた教員からは、「授業の中で、自分の良いところに気づき、児童が生き生き活動している様子が見られた」や「難しいと思っていたけれど、どの学年でも実践できそうな内容がたくさんあった」などの感想が聞かれた。



【研修の様子】

⑤児童が主体的に企画・運営する「わくわくタイム」

児童会や各委員会が中心となり、児童が主体的に企画・運営を行う、縦割り班活動「わくわくタイム」を計6回行った。「みんなが笑顔になること」をめあてとした児童会主催の「スマイルバスケット」、学校中に食に関するクイズを貼り、縦割り班ごとにクイズを解いて歩く給食委員会主催の「給食三択クイズラリー」など、さまざまな委員会がわくわくタイムを行った。委員会ごとに、どんなことをねらいとするかを考え、楽しんで活動しながらそのねらいに迫ろうと、工夫を凝らす姿が見られた。



【じゃんけんゲーム】



【給食三択クイズラリー】



⑤学校生活への提案

児童が学校運営に主体的に関わることができるよう、委員会活動などで児童の多様なアイデアを積極的に取り上げ実践していけるように支援した。6年生は現在の朝日小学校の課題を見付け、改善するための手立てとして「日々の活動」と「わくわくタイム」の2点について話し合った。委員会の時間に活動案を提案し、委員会活動に児童のアイデアが活かされるようにした。また、後期委員会では、前期委員会活動内容でのよかった点、反省点を受け、よりよい学校作りを目指すには、後期にはどんな活動を進めたらよいか、改善点や新しい提案について話し合った。放送委員会では、前期、「放送ビンゴ」を提案、実施したが、「放送中も話している」「きっと同じ放送だろうと、聞いてくれないときがある」という反省点も出てきた。そこで後期には、「放送週間」を設け静かに聞くことに全校で組んだり、「放送聞き取りビンゴ」のルールをレベルアップさせたりするなどの活動を提案した。どの委員会の活動も、6年生のアイデアが実践となったもので、児童は生き生きと活動し、児童の委員会活動への主体性が高まった。



【委員会の提案を話し合う】

⑥全校で主体的に取り組む挨拶運動

相手に心を伝える挨拶ができる児童を目指し、全クラスで、学級会で挨拶について取り上げた。どうしたら明るい挨拶が溢れる学校になるのか、現状や自分たちでできる取り組みを話し合った。1年生では、呼び掛けカードを作ったり、休み時間に学校中を回って自ら挨拶をしたりと、明るい挨拶が溢れる学校作りに取り組んだ。高学年だけでなく、低学年も進んで活動し学校運営に関わることができ、自己有用感も育まれるよい機会となった。



【取り組みについて話し合い】



【挨拶運動～1年生～】



領域別評価表 【健やかな心身】

中期重点目標 (育成する力)	心と体の健康を考えて生活する力
-------------------	-----------------

数値指標 (本年度目標)	正しい姿勢を意識できた。90%(とても 50%) お子さんとメディアとの付き合い方について話し合った。 80% (とても 20%)	まとめ評価 B
-----------------	---	----------------

達成状況			
児童 アンケート	正しい姿勢を意識できましたか。	肯定的回答 75% (とても 28%)	まとめ評価
		☒ できた 28% ☒ だいたいできた 47% ☐ あまりできなかった 18% ☒ できなかった 7%	C
保護者 アンケート	お子さんとメディアとの付き合い方について、話し合う機会を設けていますか。	肯定的回答 81% (とても 24%)	まとめ評価
		☒ 設けている 24% ☒ ときどき設けている 57% ☐ あまり設けていない 18% ☒ 設けていない 1%	A

< 資料 >

取組状況			
教職員 アンケート	メディアの心身への影響について知る機会を設け、家庭と連携し、メディアとの付き合い方について考えられるようにする。	肯定的回答 78% (とても 22%)	
		☒ そう思う 22% ☒ だいたいそう思う 56% ☐ あまりそう思わない 17% ☒ 思わない 5%	
	全校の児童が、正しい姿勢を意識し保持できるよう、意識を高める活動と体の力を高める活動の両面から取り組む。	肯定的回答 78% (とても 33%)	
		☒ そう思う 33% ☒ だいたいそう思う 45% ☐ あまりそう思わない 22% ☐ 思わない	

年 間 評 価	総括（成果と課題）
	・姿勢への意識を高めるために、悪い姿勢による体への悪影響を知ったり、自分の姿勢を振り返ったりする機会を設けてきたが、本年度は、姿勢保持のためには体幹を鍛えることも大切であることを保健指導に盛り込んだ。体育委員会が「体幹トレーニング」動画を作成し、全学年が朝の時間を使って、体幹トレーニングを実施した。児童はとても楽しんで取り組んでいた。 ・よい姿勢への意識を高めるだけでは一時的なものになってしまい、姿勢を保持することは難しかった。 ・メディアとどう付き合うと良いかを知り、自分にできることを考えられるようにすることをねらいとし、学年に応じた保健指導を全学年に行った。また、全校児童にメディアに関するアンケートを取り、結果を保健だよりに掲載して注意喚起を行った。 ・1～4年生はスマホ・ケータイ安全教室のDVD活用し、ネット使用に関するトラブルの未然防止を図るための授業を行った。5・6年生は県警によるひまわり教室で、オンラインゲームやSNSでのトラブル事案と、トラブルに遭わないための注意点について学んだ。感想では、メディアの使い方を誤ると危険な目に遭うので気を付けたいと多くの児童が書いていた。 ・児童によっては家庭で決めたメディアルールに関わらず、保護者が知らないところで長時間使用している児童もあり、自分で時間をコントロールする意識を高める必要がある。 ・冬休み中の「健康カレンダー」では、家庭でメディアに関するルールを決めてもらい、そのルールが守れたかどうか振り返りを行い、メディア使用に対する意識付けを行った。
	改善策
	・体育の活動や書写など教科の授業とも連携して、よい姿勢の指導を継続して行っていく必要がある。また、体育委員の提案のように、児童が出したアイディアで主体的に取り組める活動の方が、児童は楽しみながらより姿勢への意識を高められると考える。「わくわくタイム」などの機会に、縦割り班で姿勢について振り返り、考える時間を設けるなど、児童がより主体的に取り組めるよう児童のアイディアをもとに工夫したい。 ・保護者の関心の高さが、その児童のメディアルールを守る意識の高さにつながると思われるため、保護者への注意喚起も継続して行っていく。

【健やかな心身】

目標 心と体の健康を考えて生活する力

①姿勢に関する保健指導

姿勢をよくしようとする意識を高めるために、普段の姿勢を振り返り、悪い姿勢による悪影響について考えた。さらに、姿勢保持のためには、よい姿勢を意識することの他に体幹を鍛えることも大切であることを指導した。よい姿勢は保健指導で意識を高めるだけでは保持することは難しいため、体育や書写など教科の授業とも連携して、よい姿勢の指導をしていく必要がある。

普段の自分の姿勢を ふりかえってみよう



【保健指導の内容】

②姿勢に関する体育委員会の実践

全校の児童が、正しい姿勢を意識し保持できるようにするために、体育委員会から、体幹トレーニングを提案した。全校で行いやすいようにトレーニング方法を動画で撮影し、全学年が朝の時間を使って体幹トレーニングを実施した。トレーニングを行っている期間は、姿勢を意識したり、体幹トレーニングに意欲をもったりしている子が多かった。一方で、一時的な取り組みになってしまい、アンケートをとる学期末には、姿勢への意識の低下が見られた。姿勢の意識を習慣化させるためには、一時的ではなく継続的に行う取り組みが必要だと考える。今後は、朝の時間や業間体育だけでなく教科の時間を使いながら、継続的に行っていきたい。また、児童が出したアイデアから取り組みを考える方が、児童の主体性を高められると考える。「わくわくタイム」で姿勢をテーマにするなど、児童の姿勢への意識を、楽しみながら取り組み、より高められる工夫をしていきたい。



【体幹トレーニングの様子】

③メディアとの付き合い方に関する保健指導

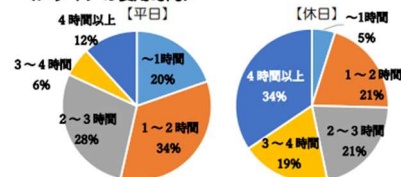
メディアとどう付き合うとよいか知り、自分にできることを考えられるようにすることをねらいとし、1・2年生は家庭でのメディアルールについて、3・4年生はメディアコントロールについて、5・6年生はネット依存について知り、考える保健指導を行った。授業後の感想では、多くの児童がこれからは、ルールや時間を守りたいと書いていた。

また、本校のメディア使用に関する実態を把握し、児童及び保護者にも知ってもらうために、全校児童にメディアに関するアンケートをとり、まとめたものを保健だよりで知らせ注意喚起を行った。児童によっては長時間使用している人もおり、自分で時間をコントロールできる力を付けられるような取り組みをしていく必要性を感じた。

オンラインゲーム	動画
【キーワード】 ログインボーナス、仲間、達成感、レベル、ガチャ、クオリアがない、垢場所、イベント、課金、アップデート、無料	【キーワード】 おすすめ動画、ショート動画、終わりがいい、伝説動画、チャンネル登録、動画の冒頭にダイジェストを流す
【やめられない仕組み】 アップデートで、いろいろそのゲームにないようさがふえたりして、とやめられないイベント、そのときにしかないものなどがてにいれるから	【やめられない仕組み】 ショート動画は、下にスワイプすると、また新しい動画が出てきて、やめられない。チャンネル登録は、好きなチャンネルを登録して、動画をもらうから。

【保健指導のワークシート】

<メディアの使用時間>



【保健だより】

実践例

④外部講師等を活用したメディア教育

ネット使用に関するトラブルについて知り、トラブルの未然防止を図るために、1～4年生はKDDIのスマホ・ケータイ安全教室のDVDを視聴して、課金・長時間使用やゲーム障害・メッセージのやり取りについてのトラブル、知らない人と連絡を取り合うことの危険性について学んだ。5・6年生は県警によるひまわり教室で、オンラインゲームでのトラブル、SNSでのトラブル（写真の送付、悪口の書き込みなど）、メッセージのやり取りについてのトラブルとトラブルに遭わないための注意点について学んだ。実際に授業後には、トラブルに関する相談を児童から申し出てくることもあり、トラブルの早期解決につながった。身近な事例が話題に出ることで、児童にとって、メディアの使い方を誤ると危険な目に遭うということが、現実的に捉えられるよい機会となった。



【6年生ひまわり教室】

⑤保護者と連携した取り組み

家庭でメディアルールを作り、守れるよう、夏休み・冬休みの健康カレンダーでは、家庭でメディアに関するルールを決めてもらい、そのルールが守れたかどうか振り返りを行った。長期休業の期間は、メディアの使用時間が増えやすいので、少しでも意識付けができるよう家族で考える機会を継続的に作っていききたい。

おきるじこく(6:00)		ねるじこく(9:30)		(おきるじこくとねるじこく)	
わがやのメディアルール		ゲームは1日1時間			
おうちのひとときめてかきましよう					
◆できたら○、できなかったら×をかきましよう。					
◆うんどうはプール・ジョギング・ダンスなどのならいごとなど、からだをうごかすもの					
[7月]	21(金)	24(月)	25(火)	26(水)	
おきるじこく	○	○	○	○	
あさごはん	○	○	○	○	
うんどう	○	○	○	○	
メディアルール	○	○	○	○	
ねるじこく	○	○	○	○	

【夏休み健康カレンダー】

領域別評価表 【家庭・地域との連携】 【健全な働き方】

中期重点目標 (育成する力)		「業務改善」と「教育の質の向上」の一体化	
数値指標 (本年度目標)	協働的・創造的に教育活動を進めた。90% (とても 50%) 業務改善と教育の質の向上を一体的に進めた。90% (とても 40%) 超過勤務 4 5 時間未満を達成、または近づいた。100%	まとめ評価	
		C	
達成状況			
教 職 員 ア ン ケ ー ト	協働的・創造的に教育活動を進めることができたか。	肯定的回答 94% (とても 39%)	まとめ評価
		できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 39% 55% 6% 0%	B
	業務改善と教育の質の向上を一体的に進めることができた。	肯定的回答 72% (とても 11%)	まとめ評価
		できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 11% 61% 22% 6%	C
	超過勤務 4 5 時間未満を達成、または近づいたか。	肯定的回答 64% (とても 28%)	まとめ評価
		できた だいたいできた あまりできなかった できなかった 28% 38% 17% 17%	C

<資料>

		取組状況	
ア ン 教 職 員	ふるさと学習で探究力と地域への愛着を高める。	肯定的回答 73% (とても 40%)	
		☒そう思う ☐だいたいそう思う ☐あまりそう思わない ☐思わない 40% 33% 27%	

時間外勤務時間の平均/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和3年度(時間)	52:06	48:01	55:09	39:28	10:49	46:05	47:24	43:32	36:51	31:19	38:04	44:01	41:04
令和4年度(時間)	44:13	50:38	52:36	33:08	11:01	43:54	43:20	40:34	36:24	36:02	41:56	44:04	39:49
令和5年度(時間)	46:10	50:00	49:56	31:06	9:41	38:54	43:44	39:22	33:41	33:07			37:34

年間評価	総括（成果と課題）	
	【プロセス】	・業務実態を把握し改善につなげるために、1学期末に教職員アンケートを実施した。教職員の現状や課題を整理し、必要に応じて取組内容や体制変更等、柔軟に見直しを図った。校務部会や研修では全教職員が改善案作成に関わるようにした。 ・冬季休業中に業務改善に関する研修を行い、業務を「無くす」「減らす」「変える」観点で協議し、リストアップ作業を行った。 ・「主体性を育む指導」「日課表」「行事・カリキュラム」「指導方法」「報告文書」等において改善案の作成が進み、日直業務、清掃方法等、随時改善を実行している。 ・スクールプラン作成に全教職員が関わり、当事者性・主体性を有していたため、協働的・創造的に教育活動を進めることが継続して行われていた。そのことが、教育の質の向上につながっていた。一方、業務への負担感は根強く残っているため、「業務改善」と「教育の質の向上」の一体化を確実に実感できない状況がみられる。
	【実態】	・時間外勤務時間の平均時間は、令和3、4年度と比較して減少傾向にある。 ・4～6月以外は、月平均45時間以下となっている。3月の月平均時間も例年増加する傾向にあるため、年度初めと年度末の業務の精選と効率化に努める必要がある。 ・教職員アンケートから、退勤時刻を自ら設定したり、優先順位をつけたりしながら業務に取り組むなど、タイムマネジメント意識の向上が見られる。一方で、気がかりな児童支援にあたる教職員は、児童の状況把握・家庭との連絡調整・関係機関との連携・必要書類の整備など、負担が大きくなっている。 ・通級担当教員、生活支援員、運営支援員など支援スタッフの増員配置が継続し、業務の迅速な処理につながっている。一方、スタッフに対し教育目標の実現に向けて共通理解を図ったり、進捗状況を確認したりする手続きが不足している。 ・校務支援システムや一人一台タブレットの活用などを通じて、一人一人の多様な状況やニーズに対応する取組が進んでいる。一方で、Home & SchoolやAIドリル導入・活用など、教職員のITリテラシーの向上が課題になっている。
	改善策	
	・上限ガイドライン（文部科学省：月45時間、年360時間等）の実効性を高めることが重要である。業務内容の削減に向けた取組事項の洗い出し作業を行ったが、具体的な取組及び改善策の検討を進め、業務内容に反映させていくことで、適正化を図る。 ・支援スタッフとの連携強化を図ることが、気がかりな児童への効果的、効率的なサポートにつながる。学校組織マネジメントを行い、役割分担を明確にした上で、担任及び担当者と共通理解を図りながら業務に従事できるよう、支援スタッフへのオリエンテーションを重視し、連絡を密に行う。研修会への参加を促し、学んだことについて担任及び担当者と共通理解を図るようにする。 ・学習指導、生徒指導、教育相談、特別支援の視点を一体化させた組織運営と教育活動により「魅力ある学校づくり」を推進し、不登校の未然防止を行う。 ・時短、効率化、削減等により生成された時間を、児童と向き合う、教職の専門性を高める、教育活動の充実を図る、教育の質を維持向上する、といった本来の目的達成のために費やし、教員の働きがいが高まる学校づくりを推進していく。業務改善の視点を踏まえた教育活動の再構成が、児童の主体性・協働性・創造性を生み出し、学校教育目標に迫ることを期待する。	

令和5年度 学校関係者評価書

越前町立朝日小学校 学校関係者評価委員会

未来を拓く学力	学習発表交流会では、パワーポイントを使用して、分かりやすく丁寧に説明していました。保護者からの質問の受け答えも、楽しくできておりました。 授業では、先生が一方的に進めるのではなく、児童の積極性を引き出す工夫が見られました。ペア活動やグループ活動を多く取り入れたり、ミニドリルやA I ドリルによる繰り返し学習に取り組んだりしていたことを、評価します。 読書については、放送委員会が読書の感想を伝えるなど、関心が高まるような活動を、考えていくとよいでしょう。
幸せな社会を創る力	2年生の廊下に、「いいところ探し」のカードが下がっていて、皆で見られるようになっております。温かい、仲間の心が伝わりました。 10月24日の2年生道徳「まいごのすず」では、困ったときに親切にすることの大切さが、児童はよく分かったと思います。また、親切にする行為をすると、自分も気持ちよくなることが、分かったと思います。 挨拶についての取組では、心を伝えることを重視して、学校全体で行われていました。挨拶実践意欲の高まりが感じられ、評価できる取組でした。
健やかな心身	マラソン大会では、グラウンドからスタート場所にスムーズに移動し、安心して安全なコースになっていました。縦割り班で応援をされていて、いつまでも児童の「がんばれ、がんばれ」という声援が聞こえました。 「健康カレンダー」では、家庭でメディアに関するルールを決めてもらい、そのルールが守られたかどうか、振り返りを行っていました。メディア使用ルールの意識付けが、図られていました。 保健だより11月号には、「よくある姿勢」が描かれていました。児童にとって、分かりやすいイラストでした。今後も根気よく指導をお願いします。 また、体幹トレーニングを継続的に取り入れたことも、評価できます。
家庭・地域との連携 健全な働き方	このコーナーに、保護者のアンケート結果を是非取り入れてほしいと思います。保護者が希望している事柄について、教師の超過勤務と対照している事柄を一緒に考えることが、必要だと思います。 目標達成に向けての、一連の取組は、評価しております。
学校全般 その他	今年度は、児童と教職員のアンケートで、「とても」を選んだ到達点に着目し、視点が変わったと思います。児童のアンケート結果は、昨年と大きく変わっていませんが、教師が研究している中期重点目標（育成する力）や数値指標（本年度目標）が新しくなったことで、今年度が初めてのデータになると思います。保護者は、そのことをどのように捉えるのか、知りたいです。 自己評価は、スパイラルで発展的に捉えるもので、結果を急がず、継続して取り組んでください。